

I. 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民生活および市政に関する市民の意見や要望を把握し、戸田市のよりよいまちづくりを推進していくための基礎資料とするものです。なお、この調査は、昭和50年より4年ごとに実施しています。

2. 調査設計

- (1) 調査地域：戸田市全域
- (2) 調査対象：平成22年8月1日現在、市内に在住する満16歳以上の市民
- (3) 標本数：3,000人
- (4) 抽出方法：無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送による配布・回収
- (6) 調査期間：平成22年8月21日～9月10日（返送期日）

3. 回収状況

- (1) 有効標本数：3,000人
- (2) 回収数：1,202人
- (3) 回収率：40.1%

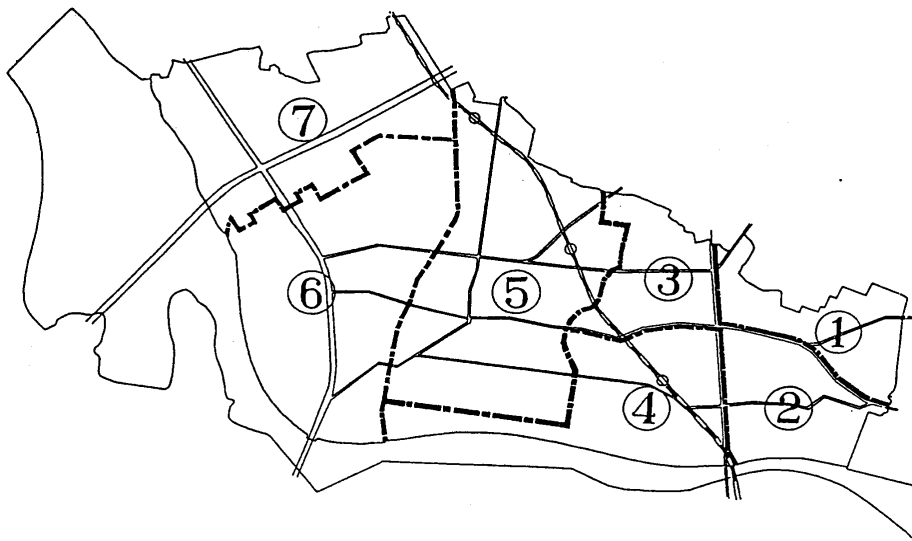
4. 調査の内容

- | | |
|----------------|--------------|
| ①フェースシート（標本属性） | ⑦保健・医療サービス |
| ②定住意向 | ⑧安心・安全のまちづくり |
| ③生活環境 | ⑨地域コミュニティ |
| ④子育て支援 | ⑩スポーツをする機会 |
| ⑤高齢化への対応 | ⑪まちづくりの重点施策 |
| ⑥公共交通の利便性 | |

5. 地区区分

市内を次の7つの地区に区分して調査、集計、分析を行いました。

1. 下戸田1地区 (喜沢1・2丁目、中町1丁目、下戸田1・2丁目)
2. 下戸田2地区 (喜沢南1・2丁目、中町2丁目、下前1・2丁目、川岸1・2丁目)
3. 上戸田1地区 (上戸田1~5丁目、大字上戸田)
4. 上戸田2地区 (川岸3丁目、本町1~5丁目、南町、戸田公園)
5. 新曽地区 (大字新曽、新曽南1~4丁目、氷川町1~3丁目、大字下笹目)
6. 笹目地区 (笹目南町、笹目北町、早瀬1・2丁目、笹目1~8丁目)
7. 美女木地区 (美女木1~8丁目、美女木東1・2丁目、大字美女木)



6. 集計・分析にあたって

- ・図表中の (n=* (*は自然数)) と年度や属性の後の () 内は、集計母数を表しています。
- ・原則として、図表の単位は%としています。
- ・回答割合 (%) は、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、属性ごとの回答割合の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・回答割合 (%) は、その設問の回答者数を母数として算出しています。そのため、複数回答の場合、選択肢ごとの回答割合を合計すると 100.0%を超えることがあります。
- ・過去の調査と選択肢等が異なる設問の経年比較については、類似の選択肢を用いている場合があります。
- ・平成14年度調査では対象が「20歳以上の男女」であったのに対し、平成22年度および平成18年度調査では対象が「満16歳以上の男女」であるため、調査対象となる母集団が異なります。

7. 標本誤差について

- この調査は無作為抽出法により行ったものであるため、標本抽出にともなう標本誤差を数学的に計算することが可能です。以下に、信頼水準 95% の場合の誤差算出式と早見表を掲載します。

$$\text{標本誤差} = 1.96 \sqrt{(N-n) / (N-1) \times P(1-P) / n}$$

N = 母集団の数 (戸田市の 16 歳以上人口 103,138 人、平成 22 年 8 月 1 日現在の住民基本台帳および外国人登録人口)

n = 各設問の回答数

P = 各回答の回答比率

回答比率 (%) 回答数(人)	10(または 90)	20(または 80)	30(または 70)	40(または 60)	50
1,202	±1.69	±2.25	±2.58	±2.75	±2.81
1,000	±1.85	±2.47	±2.83	±3.02	±3.08
900	±1.95	±2.60	±2.98	±3.19	±3.25
800	±2.07	±2.76	±3.16	±3.38	±3.45
700	±2.21	±2.95	±3.38	±3.62	±3.69
600	±2.39	±3.19	±3.66	±3.91	±3.99
500	±2.62	±3.50	±4.01	±4.28	±4.37
400	±2.93	±3.91	±4.48	±4.79	±4.89
300	±3.39	±4.52	±5.18	±5.54	±5.65
200	±4.15	±5.54	±6.34	±6.78	±6.92
100	±5.88	±7.84	±8.98	±9.60	±9.80

〈この表の見方〉

- 問 11 で今後の定住意向について、現在の居住地区に「ずっと住みたい」と回答したのは 38.9% となっています。(n=1,202)
- この場合、上表で値の近い「40 (または 60)」の欄の「1,202」の行をみると、標本誤差は ±2.75% となります。したがって、本市の全市民に同じ質問をした場合、標本誤差を考慮すると、38.9% ± 2.75% の人が「ずっと住みたい」と回答する確率が 95% であるとみることができます。

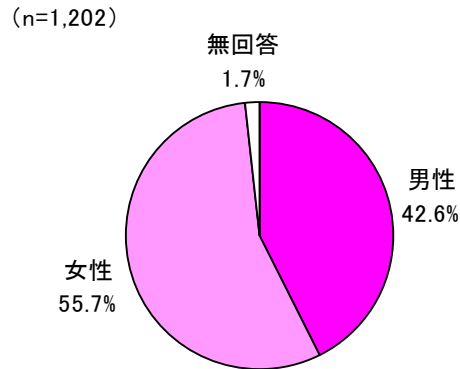
8. 回答者の属性

(1) 性別

回答者 1,202 人のうち、男性は 42.6%、女性は 55.7%となっており、女性の割合が多くなっています。

調査対象（平成 22 年 8 月 1 日現在の 16 歳以上人口）の性別構成比は、男性 52.0%、女性 48.0%です。よって、女性の回答割合が高くなっています。

図表 1 性別(全体)

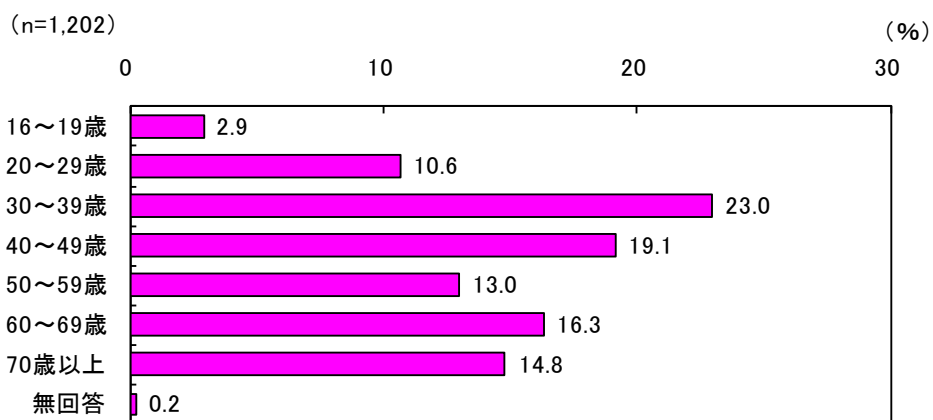


(2) 年齢

回答者の年齢構成は、30 歳代の割合が最も高く 23.0%で、次いで 40 歳代が 19.1%、60 歳代 16.3%、70 歳以上 14.8%となっています。

調査対象の年齢別構成比は、16~19 歳 4.4%、20 歳代 16.6%、30 歳代 23.4%、40 歳代 20.0%、50 歳代 12.5%、60 歳代 12.4%、70 歳以上 10.7%となっています。よって、20 歳代の回答割合が少なくなっています。

図表 2 年齢(全体)



(3) 居住地区

居住地区は、新曽地区の割合が最も多く、美女木地区の割合が最も少なくなっています。前回調査と比較して、大きな相違はありません。

調査基準となった平成 22 年 8 月 1 日現在の町丁目別人口構成比は、下戸田 1 地区 13.2%、下戸田 2 地区 15.9%、上戸田 1 地区 10.3%、上戸田 2 地区 13.7%、新曽地区 21.2%、笹目地区 15.8%、美女木地区 9.9%となっています。

図表 3 居住地区(全体)

地区区分	構成比(%)	
	平成 22 年度 (1,202)	平成 18 年度 (1,375)
1. 下戸田1地区(喜沢 1・2 丁目、中町 1 丁目、下戸田 1・2 丁目)	13.9	14.8
2. 下戸田2地区(喜沢南 1・2 丁目、中町 2 丁目、下前 1・2 丁目、川岸 1・2 丁目)	16.9	17.2
3. 上戸田1地区(上戸田 1~5 丁目、大字上戸田)	10.6	9.2
4. 上戸田2地区(川岸 3 丁目、本町 1~5 丁目、南町、戸田公園)	13.7	14.2
5. 新曽地区(大字新曽、新曽南 1~4 丁目、氷川町 1~3 丁目、大字下笹目)	21.7	19.5
6. 笹目地区(笹目南町、笹目北町、早瀬 1・2 丁目、笹目 1~8 丁目)	14.7	14.6
7. 美女木地区(美女木 1~8 丁目、美女木東 1・2 丁目、大字美女木)	8.4	9.9
無回答	0.1	0.6
計	100.0	100.0

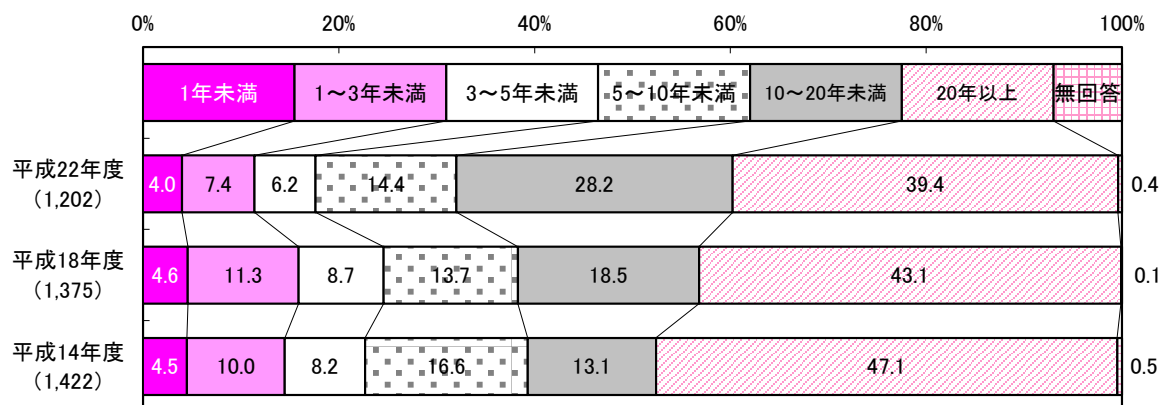
(4) 居住期間

居住期間は、「20年以上」が39.4%で最も多く、次いで「10年以上20年未満」が28.2%となっています。

これまでの推移をみると、「10年以上20年未満」が平成18年度調査を9.7ポイント上回り、一方「20年以上」が3.7ポイント下回っています。

居住地区別にみると、下戸田1地区・笹目地区・美女木地区は、居住期間「20年以上」が45%を超えており、他の地区に比べ多くなっています。一方、上戸田1地区は、居住期間3年未満（「1年未満」と「1年以上3年未満」の計）の住民が20.4%で他の地区に比べ多いという特徴があります。

図表4 居住期間(全体)



図表5 居住期間(居住地区別)

		1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	無回答
全体(1,202)		4.0	7.4	6.2	14.4	28.2	39.4	0.4
居住地区別	下戸田1地区(167)	3.6	6.0	9.0	13.2	22.8	45.5	0.0
	下戸田2地区(203)	3.0	6.4	4.4	15.3	33.0	37.4	0.5
	上戸田1地区(127)	9.4	11.0	6.3	11.0	22.0	40.2	0.0
	上戸田2地区(165)	3.0	4.8	9.7	12.7	38.8	29.7	1.2
	新曽地区(261)	2.7	9.6	7.3	20.3	30.3	29.5	0.4
	笹目地区(177)	5.1	5.1	1.1	12.4	23.2	53.1	0.0
	美女木地区(101)	3.0	9.9	5.9	9.9	21.8	48.5	1.0

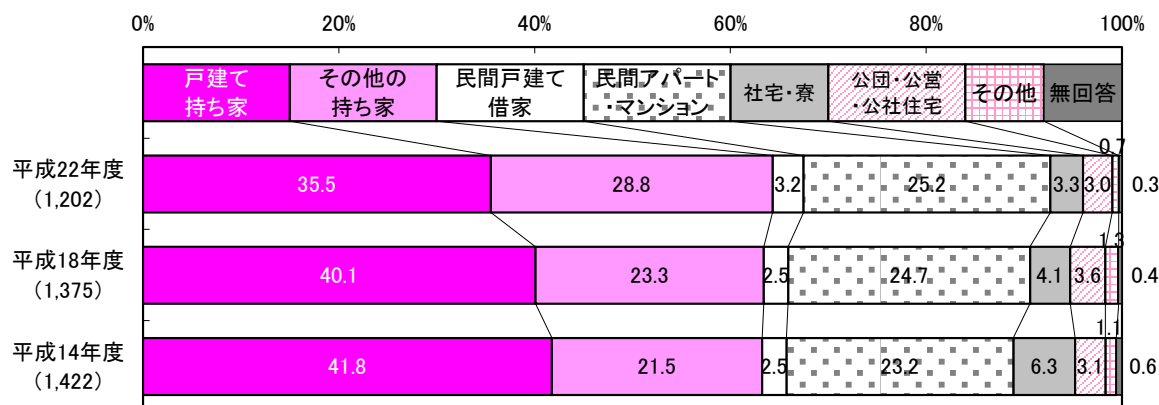
(5) 住宅の種類

住宅の種類については、「戸建て持ち家」が 35.5%、「その他の持ち家（マンションなど）」が 28.8%となっており、これらを合わせると持ち家が 64.3%を占めています。それ以外では「民間アパート・マンション」が 25.2%で比較的多くなっています。

これまでの推移をみると、持ち家比率（「戸建て持ち家」と「その他の持ち家（マンションなど）」の計）が 60%程度で推移するなかで、「その他の持ち家（マンションなど）」は平成 14 年度調査と比較して 7.3 ポイント上回っており、持ち家に占めるマンションなどの割合が高くなっています。

居住地区別にみると、下戸田 1 地区・笹目地区・美女木地区は、「戸建て持ち家」が 45%を超えて、他の地区に比べ多くなっています。一方、下戸田 2 地区・上戸田 2 地区は「その他の持ち家（マンションなど）」が 40%を超え、他の地区に比べ多くなっています。また、上戸田 1 地区・新曽地区は「民間アパート・マンション」が他の地区に比べ多いという特徴があります。

図表 6 住宅の種類(全体)



図表 7 住宅の種類(居住地区別)

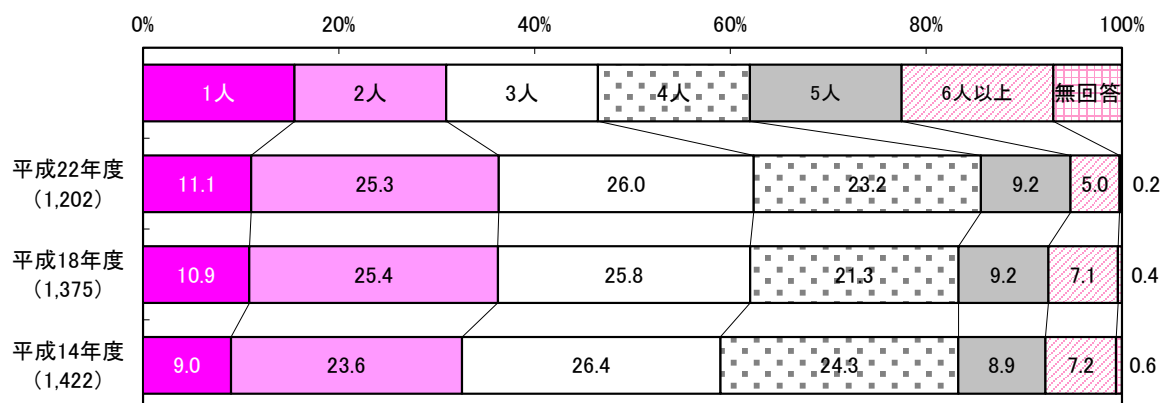
		戸建て持ち家	その他の持ち家 (マンションなど)	民間戸建て借家	民間アパート・マンション	社宅・寮	公団・公営・公社住宅	その他	無回答
全体(1,202)		35.5	28.8	3.2	25.2	3.3	3.0	0.7	0.3
居住地区別	下戸田 1 地区(167)	46.1	18.6	4.8	26.3	3.0	0.0	0.6	0.6
	下戸田 2 地区(203)	21.2	44.8	1.0	21.2	1.5	9.4	1.0	0.0
	上戸田 1 地区(127)	32.3	30.7	3.1	28.3	2.4	2.4	0.8	0.0
	上戸田 2 地区(165)	23.6	46.1	2.4	22.4	4.2	1.2	0.0	0.0
	新曽地区(261)	33.7	27.2	1.9	29.1	3.1	3.4	1.1	0.4
	笹目地区(177)	51.4	15.3	5.1	22.0	4.0	1.1	0.6	0.6
	美女木地区(101)	47.5	10.9	5.9	26.7	6.9	1.0	0.0	1.0

(6) 家族の人数

同居の家族の人数については、「2人」「3人」「4人」がそれぞれ23~26%程度となっています。

これまでの推移をみると、平成18年度調査と比較して「6人以上」の家族が減少し、「1人」の割合が増加する傾向がみられます。

図表8 家族の人数(全体)



(7) 職業

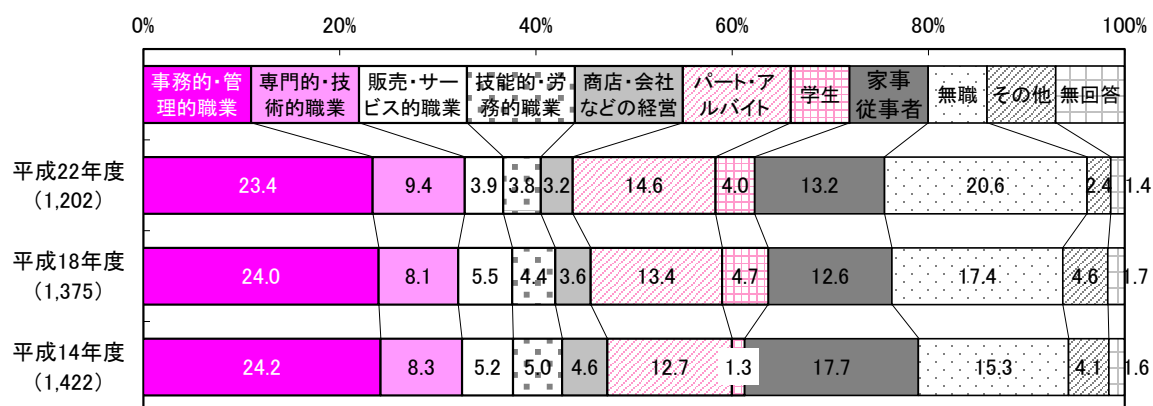
職業については、「事務的・管理的職業（会社員・公務員など）」が23.4%と最も多く、次いで「無職」が20.6%、「パート・アルバイト」が14.6%、「家事従事者」が13.2%となっています。

これまでの推移をみると、「無職」および「パート・アルバイト」の割合がやや増加しています。

なお、平成14年度調査から18年度調査にかけて、「学生」の割合が増加していますが、これは調査対象を20歳以上から16歳以上としたためと考えられます。

性別にみると、男性は「事務的・管理的職業（会社員・公務員など）」が30%を超えている一方、女性は「パート・アルバイト」が20%を超えているのが特徴です。

図表9 職業(全体)



図表 10 職業(性別)

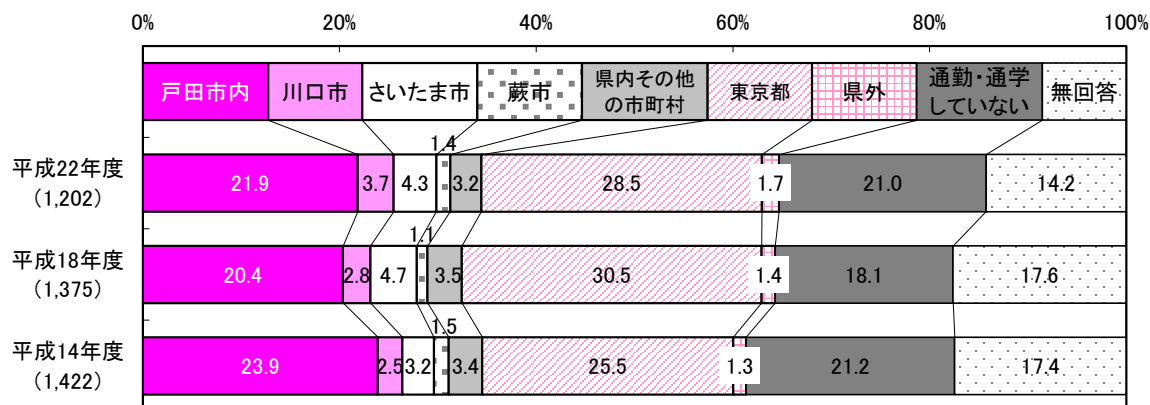
		事務的・管理的職業(会社員、公務員など)	専門的・技術的職業(医師、教師、技術者、研究職、弁護士、会計士など)	販売・サービスの職業(店員、外交員、美容師など)	技能的・労務的職業(大工、建設作業員、工員など)	商店・会社などの経営	パート・アルバイト	学生	家事従事者	無職	その他	無回答
全体(1,202)		23.4	9.4	3.9	3.8	3.2	14.6	4.0	13.2	20.6	2.4	1.4
性別	男性(512)	34.6	12.5	5.9	8.2	5.3	4.7	4.3	0.0	19.7	3.5	1.4
	女性(669)	15.2	7.3	2.4	0.6	1.5	22.1	3.9	23.6	20.5	1.6	1.2

(8) 通勤・通学地

通勤・通学している人の通勤・通学先としては、「東京都」が28.5%と最も多く、次いで「戸田市内」が21.9%となっており、隣接市(川口市、さいたま市、蕨市の計)は9.4%にとどまっています。

これまでの推移をみると、大きな相違はありませんが、平成14年度調査と比較すると、「東京都」の割合がやや増加しています。

図表 11 通勤・通学地(全体)



(9) 通勤・通学の交通手段

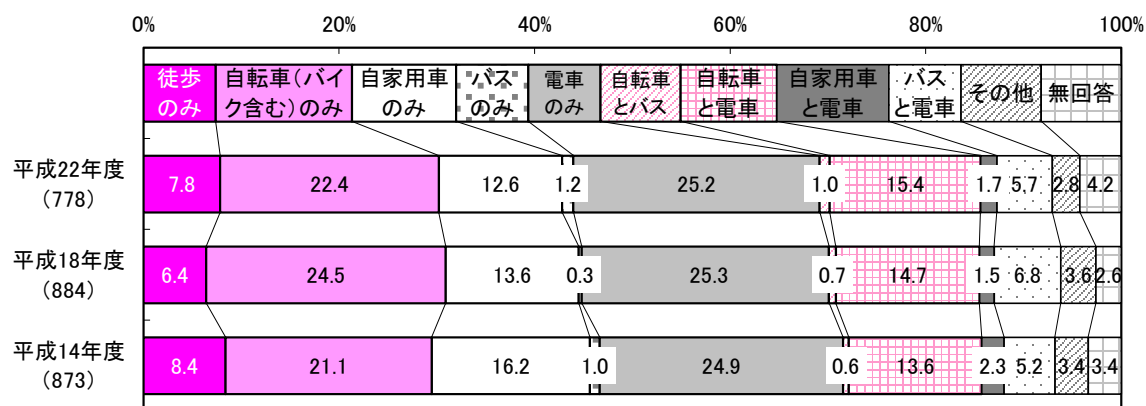
通勤・通学している人の交通手段では、電車を利用している割合（「電車のみ」に電車と他の交通手段を組み合わせたものの計）が48.0%を占めています。このほかに、「自転車（バイク含む）のみ」が22.4%、「自家用車のみ」が12.6%となっています。

これまでの推移をみると、「自家用車のみ」の割合が減少する傾向がみられます。

性別にみると、男性は電車を利用している割合が半数を超えている一方、女性は「自転車（バイク含む）のみ」が30%を超えているのが特徴です。

居住地区別にみると、上戸田1地区・上戸田2地区・新曽地区は「電車のみ」、笹目地区は「自家用車のみ」、美女木地区は「自転車（バイク含む）のみ」が最も多いことが特徴です。

図表 12 通勤・通学の交通手段(全体)



(注) 平成14・18年度調査の選択肢「徒歩と電車」は「電車のみ」に含めた。

図表 13 通勤・通学の交通手段(居住地区別)

		徒歩のみ	自転車(バイク含む)のみ	自家用車のみ	バスのみ	電車のみ	自転車とバス	自転車と電車	自家用車と電車	バスと電車	その他	無回答
全体(778)		7.8	22.4	12.6	1.2	25.2	1.0	15.4	1.7	5.7	2.8	4.2
性別	男性(392)	5.4	12.0	17.1	1.5	31.1	1.3	15.8	2.0	5.9	3.3	4.6
	女性(378)	10.1	33.1	8.2	0.8	19.3	0.8	15.1	1.3	5.3	2.4	3.7
居住地区別	下戸田1地区(112)	8.0	26.8	14.3	1.8	12.5	0.9	16.1	0.9	10.7	5.4	2.7
	下戸田2地区(132)	6.8	26.5	6.8	0.8	25.0	1.5	22.0	0.0	6.8	0.8	3.0
	上戸田1地区(72)	5.6	18.1	9.7	2.8	34.7	0.0	18.1	2.8	2.8	4.2	1.4
	上戸田2地区(110)	5.5	15.5	6.4	0.9	50.9	0.9	9.1	1.8	1.8	3.6	3.6
	新曽地区(177)	9.0	21.5	15.8	0.0	31.6	0.6	13.6	0.0	3.4	2.3	2.3
	笹目地区(113)	9.7	18.6	20.4	1.8	3.5	2.7	15.9	6.2	8.0	3.5	9.7
	美女木地区(62)	9.7	32.3	12.9	1.6	12.9	0.0	12.9	1.6	6.5	0.0	9.7